

平成17年度企画展 (通算10回目)

川井村の暮らしのこよみ — 年中行事を中心に —

平成18年2月10日から5月7日まで

前年度に引き続きテーマは「暮らしのこよみ」です。今回は雑穀を栽培する畑仕事を中心に、自然の事象から経験的に培われてきた地域のこよみを紹介しました。このたびは年中行事から見たこよみです。

展示では、村の刊行物に記載のあるものを軸に、本村でどのような年中行事が行われていたのかをパネルや写真で紹介しています。あわせて行事食を作るのに使われる[豆腐箱]、[臼]や[杵]などの民俗資料も展示しています。さらに会場入口には小正月の飾り[ゆわご](木材を削って作る飾り)の様子も再現しています。

旧暦の小正月が本展の会期の初めにあたったので、村内の方々に協力していただいて、昭和10年頃に小国地区のある家庭で実際に行われていたという小正月飾りの様子を再現しました。ミズキの木にソバやコムギの粉で作った団子をつけて神様や仏様に供える「ミズキ団子」、ほかにも棚を作って餅や団子で作った「マメ」「アワ穂」「ヒエしま」「イネばせ」に見立てた飾りをつけます。この棚は養蚕の棚を模しているそうです。このように、会期中には何度か展示を替え、他の年中行事の様子も再現する予定です。

年中行事は時代の変化に伴い、伝承が途切れたものや簡略化したものが多いです。今となっては盛んだった頃の様子を正確に知ることはできません。しかし、現在も続いているものや人々の心に残っている年中行事からは、豊作や息災を祈る人々の敬虔な心が感じられます。展示にあたって村内の多くの皆様にご協力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。



展示の様子



企画展示室入口に再現した[ゆわご]
(協力: 小国地区湯澤孝氏)



常設展示「農家の土間」コーナーに
昔の小正月飾りを再現した様子

◆企画展の実演から

開催中の企画展では、[ゆわご]の花を作る実演を行いました。これは小正月にユウガオやカボチャなどの畑作物が良くなるようにという願いをこめて作り、飾るものです。「ゆわご」はウリ科ユウガオの本村での呼び名です。

実演に協力して下さったのは小国地区の湯澤孝さんです。湯澤さんは用意してきた[鉋]でクルミの枝を削り、5分ほどでひとつの花を完成させました。

クルミの木は中心に芯があり穴を開けることができます。そしてこの穴を利用して幹となるクリの枝にさします。木の枝を削って作った花をクリの枝にさした様子は木に本物の花が咲いたようです。同様にコメノキも芯があり花を作ることができるそうです。

湯澤さんは昔おじいさんが作っていたことを思い出し、数年前から毎年花を削り、小正月に飾っているそうです。このほかにもドロノキを[鉋]で削って作る花があるそうです。これらは開催中の企画展で展示しています。



クルミの枝を削り、花を作る様子

◆館務実習から

8月4日～6日岩手大学11名、8月23日～27日東北学院大学1名、9月1日～3日岩手大学21名



聞き取り調査の様子

資料館には展示のほかにも、さまざまな仕事があります。実習生の受け入れもそのひとつです。この実習は学芸員の資格を得るために大学で学んでいる学生が実際に学芸員の仕事の一部を体験するものです。

岩手大学で博物館学を学んでいる学生は32名がそれぞれ3日間にわたり実習を行いました。1、2日目には館内の業務や学芸員の仕事の内容について説明を受けた後、資料整理、聞き取り調査を体験しました。今年度は特に旧小国中学校の体育館を改修して収めた資料の整理が膨大にあったのでその一部を手伝っていただきました。実習生は暑い中、棚の移動といった体を使う仕事から傷んだ資料札の取替えとい

った細かい仕事までをこなしていました。3日目には食文化伝承活動講座の皆さんから雑穀栽培やソバ打ち、アワ餅搗きなどを教わりながら川井村の食文化を体験しました。昔話を聞くなどして交流を深めました。

東北学院大学の実習生は、資料整理、郷土食体験を行いました。また、聞き取り調査を行った【えつこ】についてまとめ、図書館バスで来館した小学生に説明をしました。

◆資料館見学に来て!!



小国小学校4年生の皆さんが資料館を見学して作った図鑑

小国小学校4年生の皆さんが資料館を見学して「川井村昔のもの図鑑」を作製しました。これはそれぞれ畑作、林業や料理などといったテーマを決めて展示してある資料を調べ、パソコンを操作して編集した力作です。見学の時には、自分の家で使われているものについて説明してくれました。

資料館の展示資料は通常であれば手を触れることはできません。右下の写真は体験用に新たに準備した【箕】を使う体験の様子です。宮古市の崎山小学校の4年生が資料館を見学に来た際、実際にダイズと紙くずを分ける体験をしました。ほかにも【唐箕】を実際に動かして穀物をより分ける仕組みを見るなど、実際に民俗資料に触れる体験をしました。

このほかにも川井西小の1、2年生が生活科、川井小の3、4年生が社会科の学習で見学に来ました。学習活動で利用する場合、事前に相談があれば極力対応いたします。今後は体験用の民具も充実させていく予定です。



宮古市崎山小の体験の様子

◆旧小国中学校体育館

平成17年3月31日で学校統合のため廃校となった旧小国中学校の体育館を改修し、民俗資料を収納する施設として整備しました。

改修の内容は収納スペースを広げるために中二階を設ける、木製の棚を作る、機械警備を導入するなど、17年12月までに順次整備が終わりました。

これまで川井地区、江繋地区の2箇所倉庫を借りて収納していた民俗資料は11月までに移動を終え、12月にはガスくん蒸を行いました。今後は移動を終えた資料を分類ごとに整理する作業を行います。

この整備により、民俗資料館本館に納まりきれない4千点あまりの民俗資料をよりよい環境で管理できるようになりました。空調設備が整った本当の収蔵庫ではありませんが、調湿材や暗幕などを使い工夫しながら、村民の皆様からお預かりした大切な資料をいつまでも保存できるよう管理していきます。



旧小国中学校体育館の改修の様子

◆資料を寄贈・寄託して下さった皆さん（開館から平成18年2月まで）

平成6年11月の開館から平成18年2月末日までに当館に寄贈、寄託された資料について、協力して下さった皆様を紹介します。（順不同）

因幡 ユリ 様	すご編みの重り など	8点	水無 辰己 様	つかり	1点	芳門留次郎 様	こまなど	5点
河内 金作 様	計り桶 など	10点	西沢 重雄 様	機織機 など	10点	鈴木名農協婦人部	婚礼衣装 など	7点(寄託)
館向 寿人 様	写真	1点	石曾根勝雄 様	はんどう など	5点	巖岩 政明 様	ざっこどう	1点
岩館 ナヨ 様	やだかご など	8点	巢内亥十二 様	キジおき笛 など	5点	山崎 武志 様	石器 など	5点
菊地寿太郎 様	ウルシ練り鉢	1点	大洞 サト 様	機織機 など	14点	中村 文男 様	ウルシかきへら など	2点
高屋喜多男 様	ふくろや など	73点	大峠 長一 様	蜜ろう	1点	大向 源吾 様	はんどう	1点
高橋 栄 様	置き針 など	2点	大畑 長七 様	砥石 など	2点	古館セイ子 様	機織機 など	15点
高橋 卓三 様	つかみ槌	1点	滝沢 博 様	かます	1点	佐々木キヌ 様	どっここ など	14点
佐々木和三郎 様	ばつそり など	9点	滝野 アツ 様	簪 など	6点	清水 幸一 様	かぎ	1点
佐々木富治 様	薬まぶし など	7点	茶畑 千治 様	反物 など	2点	永田勘四郎 様	脱穀機 など	20点
坂本権四郎 様	目釘 など	2点	中家 薫 様	くりぬき小刀 など	6点	中村 久子 様	晴れ着	1点
榊原 市男 様	鋤へら	1点	中村フチノ 様	経掛けの棒 など	23点	巖岩庄右門 様	刀	2点
榊原 春雄 様	投網 など	26点	中村賢一郎 様	機織機 など	20点	佐々木初男 様	こば材	1点
山崎 勇雄 様	唐箕 など	12点	中村 邦昭 様	機織機 など	9点	佐々木元治 様	背負い台 など	17点
山名 トク 様	真綿 など	2点	長沢日出男 様	元折銃 など	4点	小野寺智賀 様	やだ釜	1点
山名 照満 様	かぎ	1点	道又 キヨ 様	炭すご など	6点	野崎 レン 様	はかり	1点
山名 崇民 様	縄土器・石器 など	4点	道又 修 様	しゃくし など	18点	澤口 鴻一 様	火縄銃 など	2点
新田 武平 様	こしき など	9点	道又 邦彦 様	よめさお など	32点			

ここにお名前を記し、感謝を申し上げます。このほかにも体験、活用のためとして瀬田マサ様からかんじき5点、山田町安西製材所様より木工用具など15点、旧川井森林管理署より関係資料を頂戴しております。今後とも村内を中心に民俗資料を収集してまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお開館までに村民の皆様から当館に寄贈、寄託された資料は『ガイドと資料目録』（平成7年3月31日発行）にお名前とともに掲載されております。ここで改めて御礼申し上げます。

◆トチの実を食べよう

トチの実のアクを抜いて食用にするということは、昭和20年頃まで行われていたようです。昔を思い出しながらトチの団子作りに協力して下さったのは江繫地区の眞館ヒテさん、田野風ミネさんと江繫地区公民館です。これは前年から引き続き行っている公民活動の一環を民俗資料館で記録させていただいたものです。

トチの実からアクを抜く方法についてはまた別な機会に紹介したいと思いますが、大きく2通り伺うことができました。ひとつはトチを殻ごと潰して蕤などで包んで保温して発酵させてアクを抜く方法です。もうひとつは殻を剥いたトチの実を木灰の水につけてアクを抜く方法です。今回は後の方法でトチを加工しました。作った団子は江繫小学校の児童や先生に試食していただきました。思ったほど苦くないという感想でした。

資料館にはトチの皮を剥く〔トチ剥き〕がありますが、これ1点だけではトチを加工することはできません。また、経験者がいたからこそ、その工程を知ることができました。



トチ団子を作る様子



トチ団子を試食する様子（江繫小学校）

◆民俗資料のくん蒸

民俗資料館では2年に1度、専門の業者に依頼して民俗資料のガスくん蒸を行っています。今年度は本館に加え、旧小国中学校に移動した民俗資料についてもくん蒸を行いました。ほとんどの民俗資料は木材や布などからできているため、常に虫やカビの害に気をつけなくてはなりません。また、密閉された空間ではないため、清掃などを行い、くん蒸を行った後も害虫がすみにくい環境やカビが発生しにくい環境を維持するよう努力してまいります。

◆平成17年度の入館者数

今年度の入館者数(2月末現在)

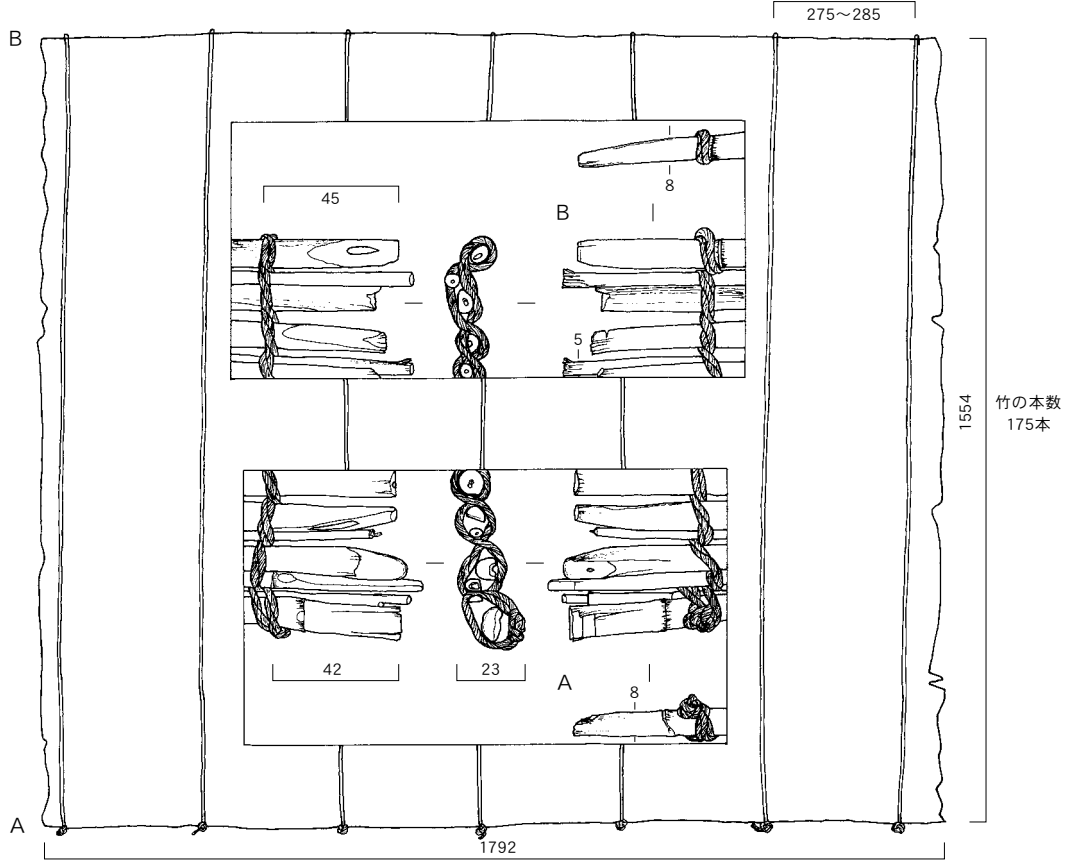
一般	学生	児童	団体	免除・公用	計
480	12	20	713	384	1,609

来館者よい

●実際に民家で使われていた生活用具がたくさんありました。他の博物館と違って本当の昔の民俗や生活に触れた感じがします。展示に説明があるととってもよかったです。たくさんの人に見てほしい資料館です。

●せっかくの展示、やはり空調がないのが辛く、じっくり集中してみることができず残念。ビデオでの焼畑などの説明はわかりやすくとても興味がわきました。もっとゆっくり見たかったです。

実測図講習会の成果を紹介します。



伝票番号 2046
 資料名 すのこ
 旧所有者 道又一男氏
 話者 高屋喜多男氏
 材質 スノ（シノダケ）、マダ縄
 製作者 家の人
 製作方法 スノをマダ縄で編む(スノは丈夫で最高級)。カヤやヨシを交互に編んだものだった。カヤだけだと火が危ない。
 使用年代 萱葺きの家があるうち。高屋家では昭和31年まで。
 使用場所 火桁（炉の上の部分）

使用方法 天井の梁と桁の間に長い木（さお）をおいて、その上に[すのこ]を置く。梁が枠の代わりとなった。[火桁]に[すのこ]を3~4枚並べて広げて、クリ、トチやシダミ（ドングリ）などを干した。養蚕の時期は炉以外の場所に設置。
 備考 木の実には先に日に干してから、湯を通して[すのこ]に上げた。乾燥はトチが一番長くかかった。乾燥させた木の実には保存食で「けかじ」のとき食べた。木の実を[すのこ]に長く置くとネズミにとられるので、乾燥したら[きつつ][せいいる][かます]などに移して保管した。
 調査年月日 2005.12.5
 調査者 桜岡咲子
 作図者 桜岡咲子

「すのこ」を実測した

桜岡 咲子

炉端で燃える火に手をかざしてあたたかっていた遠い昔、薪が燃える暖かさの中に、目にしみる煙さやその匂いがありました。その匂いが今回実測することになったこの「すのこ」からして、それは、数十年たっても未だ消えずに残っている懐かしい香りです。

その「すのこ」は、真黒くすすけていますが何本もの竹が編まれて作られていることがわかります。高屋喜多男さんのお話によれば、「すのこ」は、カヤとヨシを交互に編むのだそうですが、このカヤとヨシだけでは火が危ないのでニガタケを混ぜて編むことで燃えやすさを防ぎ、その上強い「すのこ」ができるということでした。私が実測した「すのこ」は、カヤとニガタケがしっかりとマダ縄で編まれたものでした。この「すのこ」を炉の上の「火桁」という所に何枚も並べて、その上にトチやクリやシダミ（どんぐり）をのせて干しておいたのだそうです。そうすることで虫喰いや腐敗を防いだのでしょうか。貴重な保存食として貯蔵するための昔の人々の知恵だったのだと思います。

私が実測図をかいていて思うことは、資料を実測して図を仕上げ終らないということです。実測図の奥に昔の人々の暮らしが見えてきて、毎回そこから何かを教えられていることに気がきます。

昔の人々が、使っていた資料は必ず作っています。自然の中から採取して自分の手で工夫されてしっかりと作りあげられています。そして、この作られたものは、生活の中で必然と生かされていて人々がそこで暮らしていたことがよくわかります。

その昔の暮らしの中にこそ、人々が自ら作りあげた本当の豊かさがあるように思われます。確かに厳しい自然と向き合う生活であったのかも知れませんが、それ故に大切に扱われていたその資料からは、家々のぬくもりが伝わってくるような気がします。そのぬくもりがふれながら、今回は「すのこ」の実測を終えることができました。